

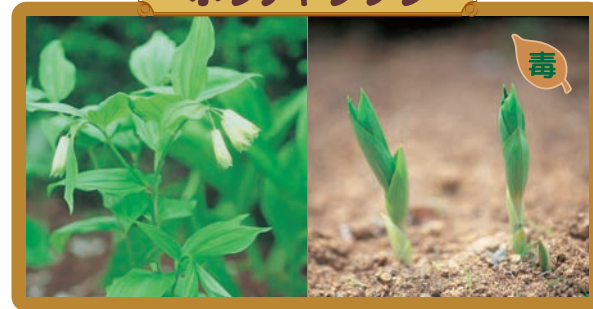
アマドコロ



白色の太い根茎は食べると甘いことからアマドコロと呼ばれる。
茎は角張っていて、葉は互生する。
葉のつけ根から先の方が緑がかった釣鐘型の白い花を咲かせる。



ホウチャクソウ



山地、原野の林の中に生え、高さ 40～50cm になる。白い筒状の花を茎の先に 1～3 個つけ、強い苦味と悪臭がある。
若芽に有毒成分が含まれるので要注意。

ユキザサ



初夏の頃、白い雪のような花をつける。
若芽の時、すでに小さいつぼみを中心にたくさんかかえている。
葉の両面に毛を密生するので確かめて摘めば間違いはない。

ギョウジャニンニク(ヒトビロ)



低地の林内、山地の日当たりのよい傾斜地に生える。強烈なニンニク臭があり、茎は赤紫色を帯びる。
葉はスズラン(毒)に似た形だが大きくて光沢がある。

チゴユリ



山林のやや明るい林内に生える多年草で高さ 15～30cm になる。葉の形は楕円形で、茎の先に 1～2 個の白い卵型のつぼみをつける。

スズラン



草地に生え、初夏に白い鈴型の花を咲かせる。
全草、特に根にコンバラトキシンなどの有毒成分を含み、誤食するとおう吐、頭痛、呼吸麻痺を起こし、死亡することもある。